



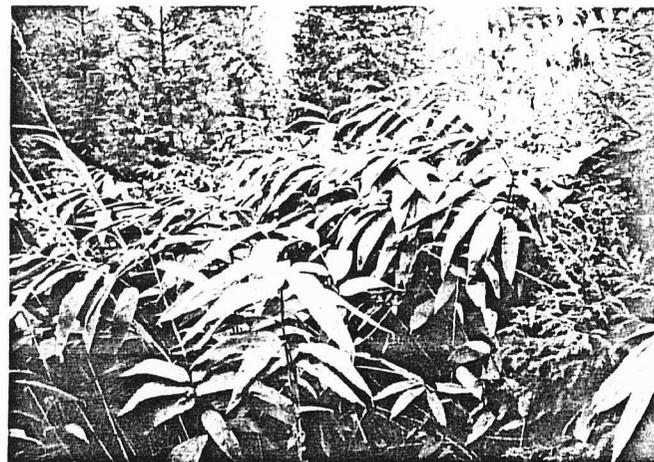
昭和54年8月30日 晴 午後 17時30分
 イベリン 散布



54. 10. 17日、状況

8

54. 10. 17日、状況



状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

福 岡 營 林 署

(様 式 6)

昭和56年5月26日撮影
ササの変化全くない。成長旺盛である。



(指示課題)

昭和57年度技術開発実施報告書

課 題	経 統 別 新 規	経 統 別 目 的 性	経 常 別 目 的 性	担 当	開 発 箇 所	福 岡 八 代 高 校	期 間	昭 和 53 年 度 ～ 昭 和 58 年 度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額				
											物 件 費	役 務 費	人 件 費	計	千 円				
道											調査用品								
目的											現像焼付								
											臨時	7人							
全 体 計 画												当 年 度 分							
実 施 経 過				実 施 計 画															
実 施 結 果				評 価 お よ び 其 他 計 画															
<p>1. 過去における除草剤散布箇所の追跡調査。</p> <p>① 使用薬剤</p> <p>② 散布方法</p> <p>2. 防除方法</p> <p>① 化学的防除法</p> <p>① 使用薬剤</p> <p>② 散布方法</p> <p>② 物理的防除法 (スタールオイル被覆)</p> <p>① 方形植</p> <p>② 築植</p> <p>③ 生理的防除法 (開花促進剤等の散布)</p> <p>① 散布の方法</p> <p>② 散布の時期</p> <p>3. 調査事項</p> <p>① 効果調査</p> <p>② 作業工程調査</p>				<p>1. 昭和53年度</p> <p>2-②(3)について試験地を設定した。(高千穂、福岡)</p> <p>2. 昭和54年度</p> <p>① 2-①について試験地設定(八代、高千穂)</p> <p>② 効果調査</p> <p>3. 昭和55～56年度</p> <p>防除方法別効果調査</p> <p>① 薬剤(フレック)による方法については1年目で新苗の生育は抑制され黄変枯死した</p> <p>② スタールオイルについては、被覆部分はササ及び他植生とも消滅した。</p> <p>③ 開花促進剤等の散布については変化はみられな。</p>				<p>1. 効果調査</p> <p>2. 各方法の経過の検討と対策</p>				<p>1. フレック粒剤散布後の経過</p> <p>散布後日経時5年8月1年9ヶ月経過で全体として、落葉が若干みれる程度であるが、57年1月で2年2ヶ月経過では葉柄の変色が見られ散布効果が明確に判定できる。</p> <p>また、50kg/haより25kg/haの方が効果が大きい。</p> <p>2. スタールオイル被覆部分(80x80)については完全に枯死。しかも被覆以外については、ササ、クマイタコ等が繁茂したため、54年度下刈1回省かし、55、56、57年度は下刈を実施した。</p> <p>スタールオイル区の植栽木の生長量は対照区に比べて樹高は劣っているが、根元径は上回っている。</p> <p>3. 開花促進剤等の散布効果は全くみられな。</p>				<p>1. フレック粒剤散布効果については、期間的には永くかかる効果があるものと考えらる</p> <p>2. スタールオイルは生育の省力としての効果は少ない。</p> <p>3. 開花促進剤の散布については効果はなかつた。</p>			

課題名	造林の初期管理における省力法 ササ類の防除試験					
課題区分	指示	開発期間	昭和55年度	担当	造林課 柳井 実明 他	
目標	ササ類の防除は塩素殺草剤を主体としていたが、今後新たに開発される薬剤の試験並びに効果的防除技術を開発し体系化をはかる。					
結果	竹類の開花、結実の習性を利用し開花促進剤として薬剤「ジベレリン」(植物成長調整剤)を一定濃度で撒布し開花結実については枯死に至る方法を検討することによって試験したが効果は得られなかった。					
施業及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法	皆伐跡				
	樹種	スギ				
	林齢	9年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	40当たり本数	本				
	材積	m ³				
開発経過と調査内容						
開花、結実促進のため促進剤撒布4ヶ月前ササ生地に試験設定後施肥を行ない、2回にわたりジベレリンを撒布し、毎年定期的に開花、結実の状況調査を実施した。						

評価及び普及指導	
効果は認められず他の物理的、化学的枯殺方法の開発を望む事となった。	

試験経過記録

区 分 指 示

福岡 営林署

(様式4) ~ /

課 題	造林の初期管理における省力法 ササ類の防除試験																								
<p>従来のササ枯殺剤のほかに新たに開発された薬剤による枯殺効果も実験するとともに除去後の抑止板による再発生抑止ならびに結集促進による枯殺方法等、化学的、物理的、生理学的方法について効果と経済性について比較検討し、収穫から造林に至る連携技術の確立をはかる。ため試験を行った。</p> <p>上記のうち 生理学的方法による試験を実施する。</p> <p style="text-align: center;">ジベレリン 撒布要領</p> <p>撒布時期 7月中旬 100 8月中旬</p> <p>薬液 ジベレリン 0.5%</p> <p>濃度 10倍液 100 20倍液</p> <p>撒布量 おおむねササの葉面がぬれる程度</p> <p>撒布方法 背負式手動噴霧器を用いる。なお薬剤はホルモニ剤不特に入畜に害はないが用心のため風上を背に背行しながら撒布する。</p> <p style="text-align: center;">実施経過</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">昭和54年3月16日</td> <td>試験地設定 100 施肥実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“ 54年7月24日</td> <td>ジベレリン処理 (第1回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“ “ 8月30日</td> <td>“ (第2回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“ 55年11月</td> <td>追跡調査 (効果調査)</td> <td>効果認めず</td> </tr> <tr> <td>“ 56年10月</td> <td>“ “</td> <td>“</td> </tr> <tr> <td>“ 57年11月</td> <td>“ “</td> <td>“</td> </tr> <tr> <td>“ 58年1月</td> <td>隣接地に除草剤(塩素酸ナトリウム50%)デゾレート粒剤の撒布試験実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>“ 58年11月</td> <td>追跡調査 (効果調査)</td> <td>“ (除草剤試験地についても実施を逸(効果あり) 施)</td> </tr> </table>		昭和54年3月16日	試験地設定 100 施肥実施		“ 54年7月24日	ジベレリン処理 (第1回目)		“ “ 8月30日	“ (第2回目)		“ 55年11月	追跡調査 (効果調査)	効果認めず	“ 56年10月	“ “	“	“ 57年11月	“ “	“	“ 58年1月	隣接地に除草剤(塩素酸ナトリウム50%)デゾレート粒剤の撒布試験実施		“ 58年11月	追跡調査 (効果調査)	“ (除草剤試験地についても実施を逸(効果あり) 施)
昭和54年3月16日	試験地設定 100 施肥実施																								
“ 54年7月24日	ジベレリン処理 (第1回目)																								
“ “ 8月30日	“ (第2回目)																								
“ 55年11月	追跡調査 (効果調査)	効果認めず																							
“ 56年10月	“ “	“																							
“ 57年11月	“ “	“																							
“ 58年1月	隣接地に除草剤(塩素酸ナトリウム50%)デゾレート粒剤の撒布試験実施																								
“ 58年11月	追跡調査 (効果調査)	“ (除草剤試験地についても実施を逸(効果あり) 施)																							

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状態写真は別冊整理する